

令和 5 年 6 月 2 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19H04374

研究課題名(和文) 計量テキスト分析を用いた現代中東における新たな政治的動員に関する実証研究

研究課題名(英文) Exploring New Political Mobilization in the Middle East by Quantitative Text Analyses

研究代表者

末近 浩太 (SUECHIKA, Kota)

立命館大学・国際関係学部・教授

研究者番号：70434701

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、現代の中東における新たな政治的動員について、計量テキスト分析によって実証的に明らかにすることを目的とした。特に中東における政治的対立の拡大と激化をもたらしている宗派主義・過激主義・権威主義の政治的動員の因果効果およびメカニズムに着目し、計量的にその傾向や確率の解明に取り組んだ。その結果、従来の定性的な分析では見落とされがちであった伝統的紐帯を用いないかたちの新たな政治的動員が実施される条件が浮き彫りになった。これらの研究および成果発信を通して、世界でも類のなかったアラビア語の計量テキスト分析、そして、定性・定量を組み合わせた新たな地域研究のあり方を提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、次の3点に集約できる。第1に、宗教・宗派や民族といった伝統的紐帯に着目した従来の中東政治分析に対して、計量テキスト分析という新たな方法を導入することで、より高い実証性を備えた分析を可能にした点である。第2に、これを通して、伝統的紐帯が決定要因であるかの見方が優勢であった中東政治の理解に対して、より動的な分析と解像度の高い地域像の提示を可能とした点である。第3に、地域のテキストをめぐる定性・定量の両方を組み合わせた新たに地域研究のあり方を提示した点である。これらの学術的意義は、中東という地域の理解のアップデート/アップグレードを促すという社会的意義を有する。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to empirically clarify, by means of quantitative text analysis, what aspects of political mobilisation in the contemporary Middle East have emerged. It paid particular attention to the causal effects and mechanisms of sectarianism, extremism and authoritarian political mobilisation that have led to the expansion and intensification of political conflict in the region, and made efforts to quantitatively elucidate their trends and probabilities. As a result, the conditions for the implementation of new forms of political mobilisation that do not use traditional ties and bonds, which have tended to be overlooked in conventional qualitative text analysis, were highlighted. Through these studies, this study presented an unprecedented method of quantitative text analysis of the Arabic language and a new approach to area studies that combines qualitative and quantitative methods.

研究分野：中東地域研究

キーワード：中東 地域研究 政治学 アラビア語 計量テキスト分析 レバノン シリア イラク

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 背景 1: 宗派主義・過激主義・権威主義の拡散

2011年の「アラブの春」以降、中東地域の政治的対立は拡大と激化の一途をたどっていた。シリア、イラク、イエメン、レバノンの紛争はイランとサウジアラビア、ロシアとアメリカの代理戦争の様相を呈し、国境を越えた宗派間の分断を深刻化させていた。他方、エジプトやバハレーンでは、国際社会の事実上の承認を経た独裁政権が跋扈し、国民の間の分断を深刻化させていた。そして、こうした状況は、イスラーム国(IS)に代表される過激なイスラーム主義組織の跳梁をもたらした。その結果、宗派主義(スンナ派對シーア派)、権威主義、過激主義の3つの「病理」が、連鎖的/越境的に進行し、人びとの間に帰属の政治(identity politics)を基調とする亀裂と分断が拡大した。

### (2) 背景 2: 新たな言説空間の生成と政治対立の激化

こうした「帰属の政治」の急速な拡大は「アラブの春」の時期にみられたが、その背景としてインターネット上の新たな言説空間の生成が指摘されてきた。特に紛争や独裁が進行する諸国では、フェイスブックなどのソーシャルネットワークサービス(SNS)や政党や政治組織が運営するニュースサイトといった非公的メディアへの利用頻度・信頼度の高さが明らかになっていた。さらに問題なのは、中東地域では非公的メディアが政党指導者や宗教者による政治動員に露骨に用いられ、研究者がそうした分断を煽る言説や動員のレポーターを無批判に分析の枠組みとして採用してしまうことで事態をより深刻化させていた点であった。それを象徴するのが、「宗派主義」や「宗派対立」といったマジックワードによる説明の跋扈であった。

### (3) 背景 3: 静態的議論の陥穽

非公的メディアによる社会の分断という現象を考える際にもう一つ重要になるのは、言説(テキスト)と文脈(コンテキスト)の間の動態的關係である。非エリート(有権者、一般住民)はエリート(政党指導者や宗教者など)による政治動員の戦略に対して無条件に応えるわけではない。例えばシーア派の政党指導者が宗派主義を用いた政治動員を行ったとしても、それを支持する要因がシーア派という宗派であるかどうかは、背景にある選挙やテロ事件などの様々なコンテキストを丹念にみなければ分からない。つまり、政治動員のためのテキストも、それに対する非エリートの認識も、現実政治のコンテキストのなかで常に変化するものとして動態的にとらえる必要がある。近年発表されるようになった中東の非公的メディアを通じた政治動員に関する研究も、その多くがテキストの内容分析や単語の出現数のカウントにとどまっており、現実政治というコンテキストとの連関については実証的に解明されていなかった。

## 2. 研究の目的

以上のように、今日の中東地域をめぐる現状認識(1)(2)と、その分析にかかわる問題(3)に鑑み、SNSに代表される非公的メディアが形成する新たな言説空間において、エリートが「どのように」「どの程度」政治動員を企図し、非エリートはそれに「どのように」「どの程度」応えているのかという点の分析が不可欠であることが明らかになった。そこで、本研究は、中東地域における政治的対立の拡大と激化をもたらしている宗派主義・過激主義・権威主義の政治動員の因果効果およびメカニズムを解明することを目的とした。

## 3. 研究の方法

研究の方法としては、RやPythonを用いた計量テキスト分析(計量的分析手法を用いてテキスト型データを量的に分析し、従来の記述的研究では見えてこなかった繋がりやメカニズムを解明する方法)を行った。そして、これを通して、アラビア語の計量テキスト分析の技術開発を進め、中東地域研究と社会科学を架橋する斬新な方法論の確立を目指した。

(1) エリートの言説の内容分析: 中東諸国、特に紛争と社会の分断が深刻なシリア、レバノン、イラクを対象に、政治家、政党指導者、宗教者が紡ぎ出す言説の原典となる資料(綱領、マニフェスト、演説、思想書など)で、何が語られているのか、定性的な分析を行った。代表者と分担者が日々続けている日刊紙をはじめとする各種報道のデータベース化作業を継続するとともに、現地調査による収集・分析を行った。

(2) アラビア語の計量テキスト分析: 政党、政治組織、宗教組織が発信するSNSなどの非公的メディア、具体的にはシリア、レバノン、イラクの合法政党、シーア派民兵組織、スンナ派過激派組織の独自アカウント、特にフェイスブック上のテキストを手作業で収集し、データセットを構築した。さらに、合法政党や民兵組織の発信に対する非エリート(有権者/一般住民)の反応についてのテキストのデータセットも構築する。第1段階として、単語の出現回数を可視化したり、頻出単語の繋がりを可視化したりする作業を行い、それをもとに本格的な計量分析を行った。これを通して、エリートが、SNSに代表される非公的メディアが形成する新たな言説空間を利用して「どのように」「どの程度」政治動員を企図し、非エリートはそれに「どのように」「どの程度」応えているのかという点を明らかにした。さらに、外国の介入、テロ事件、軍事衝突とい

た重要なイベントの変数を加え、多変量解析によって政治動員の方法とその時間的な変化を実証的に明らかにした。

(3) 政治動員の因果効果・メカニズムの推論 : (1) の言説分析、(2) の計量分析結果に加え、代表者(末近)と分担者(山尾)を中心に実施してきた世論調査(新学術領域「グローバル関係学」で実施)の結果、メディアと政治の関係性(分担者千葉の研究成果)、選挙の投票傾向、紛争強度といった様々な変数を総合的に考慮し、宗派主義・過激主義・権威主義による政治動員が、中東地域における政治的対立の拡大と激化に「どのように」「どの程度」作用しているのかという、政治動員の因果効果およびメカニズムの解明を試みた。

#### 4. 研究成果

##### (1) 2019 年度

シリア、レバノン、イラク、エジプトに関する定性的手法を用いたエリートの言説分析とこれらの諸国の政党、政治組織、宗教組織ないしプロパガンダ機関(メディア)が発信する公的/非公的テキストデータの構築と予備的分析を行った。そして、研究成果の一部を国内外の研究会、シンポジウム、国際会議(日本中東学会、日本国際政治学会、IPSA、Poltext)で発表し、様々な研究者からのフィードバックを得た。

については、まず、対象国として取り上げたレバノンとイラクの複数の日刊紙のデータベース(コーパス)構築を行った(末近、山尾)。また、レバノンについては、現地での報道関係者や研究者への聞き取り調査を行った(末近)。対象国の1つであるエジプトについては、エリートの言説に関する資料の収集を現地で実施した(千葉)。は、分担者の千葉を中心に選定したテキストを形態素分析にかけた。その結果をもとに頻出単語をワードクラウドで可視化し、頻出単語の繋がり強度を図るNグラムを用いて共起ネットワークを作成した。また、末近と山尾を中心にアラビア語のテキストのコーパスの構築および分析のためのRおよびPythonのコード開発を進めた。

については、成果の一部を暫定的に発表すべく、国内研究会の実施(9月、3月)、国際会議でのパネル報告(1月)、学術誌への投稿(和文・英文)を行った。また、新たなコード開発のために2020年度より専門の研究分担者(木下)を追加することを検討した。

##### (2) 2020 年度

初年度に収集・構築したデータセットの本格的な分析を通して、中東諸国における政治的動員のメカニズムの実証研究を推進し、その成果の発信に努めた。第1に、収集したアラビア語語原典資料の解析を通じたシリア、レバノン、イラク、エジプトの政党指導者や民兵組織の幹部などのエリートの言説分析を行った。その結果、中東諸国において、選挙の際の大衆動員の戦略として宗派や部族といった伝統的紐帯が用いられるケースが多いことが、定性的・定量的の両方の観点からあらためて明らかになった。第2に、RとPythonを用いたアラビア語のテキストのビッグデータを対象とする本格的な計量テキスト分析を開始した。具体的には、いくつかの重要なイベント(外国の介入、テロ事件、軍事衝突、選挙など)を設定し、その前後で政治動員に用いられたキーワードとその構造がどのように変化したのか、時系列的变化を検証するための多変量解析(潜在意味測定; LSS)によって明らかにした。その結果、選挙や組閣といった政治的な緊張や対立が深まる時期には、政治主体が伝統的紐帯を押し出した政治的動員を試みる傾向が見られた一方、選挙協力や政治同盟といった戦略が環境的に合理的であると判断された場合には、そうした紐帯を横断するようなナショナリスティックな言説が用いられることが明らかになった。これらの分析と結果については、国内でオンラインを用いた研究会の開催を通じて精緻化し、国内外の学会(日本マス・コミュニケーション学会、Southern Political Science Association Annual Conferenceなど)で報告し、一部の成果については分担者(山尾)の単著のかたちで刊行した。なお、計画当初より予定していたレバノンとエジプト、および英国での聞き取り調査については、Covid-19のパンデミックを受けて、21年度以降に延期を余儀なくされた。

##### (3) 2021 年度

現代中東地域における政治動員の実態について、前年度までの国内政治の文脈に加えて、中東域内政治という国際政治・国家間関係の文脈にまで分析の幅を拡げた。そして、これらの分析を通して、テキストを対象とした定性的・定量的の両方の手法を備えた新たな地域研究のあり方を提示した。国内政治の文脈においては、レバノンとイラクの2つのケースを取りあげ、それぞれ選挙の前後に政党が他の政党とどのような関係を築くのか、という問いを設定し、政党が発行する新聞の論調の変化の分析を通してこれを論究した。この作業の一部、特にデータの収集については、Covid-19のパンデミックのために22年度に延期を余儀なくされた。分析の結果明らかになったのは、政党による政治的動員の戦略の選択(伝統的紐帯を利用するかどうかの違い)が、それぞれの国の法制度に強く影響されている実態であった。特に選挙制度の変更は、レバノンとイラクの両国において政党による政治的動員に用いられるワードに大きな変化をもたらすことが判明した。他方、国際政治のケースとしては、2010年代以降の中東域内国際関係を規定してきたサウジアラビアとイランという二大地域大国の政治対立に着目し、アラブ諸国の側から見たイランに対する脅威認識を各国の主要紙からなるテキストビッグデータの解析を通して分析を試みた。ここで明らかになったのは、中東では国内政治だけでなく国際政治の文脈においても伝統的紐帯を用いた政治的動員が見られることであったが、その際にアラブ諸国の脅威認識

を規定するのは宗派(スンナ派/シーア派)の違いだけでなく、政治環境の変化に応じて同一宗派内の「裏切り」であることが明らかになった。これらの成果は、国内外の学会(日本政治学会、IPSA、Middle East Studies Associationなど)での研究報告を通して発信し、また、和文・英文ジャーナルへの投稿を行った。

本研究課題の研究および成果発信を通して、世界でも類のなかったアラビア語を用いた計量テキスト分析、そして、定性・定量を組み合わせた新たな地域研究の1つのあり方を提示した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 540
2. 論文標題 内戦後最大の政治経済危機に直面するレバノン	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 7-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 66
2. 論文標題 「アラブの春」から10年：イスラム主義はなぜ敗北したのか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 110-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山尾大・浜中新吾	4. 巻 61巻3号
2. 論文標題 ポスト紛争社会の政治動員と投票率の関係 イラクにおけるサーベイ実験から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア経済	6. 最初と最後の頁 2-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24765/ajikeizai.61.3_2	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山尾大	4. 巻 28
2. 論文標題 Re-securitization as Evasion of Responsibility: A Quantitative Text Analysis of Refugee Crisis in Major Arabic Newspapers	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Population and Social Studies	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千葉悠志	4. 巻 14
2. 論文標題 <書評>見市建・茅根由佳(編著)『ソーシャルメディア時代の東南アジア政治』明石書店 2020年 165頁	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 イスラーム世界研究	6. 最初と最後の頁 367-370
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/262513	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木下博子	4. 巻 28
2. 論文標題 A Quantitative Text Analysis Approach on LGBTQ Issues in Contemporary Indonesia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Population and Social Studies	6. 最初と最後の頁 66-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 167
2. 論文標題 「ヒズブッラーとイラン：1980年代初頭の中東政治の構造変容」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊アラブ	6. 最初と最後の頁 9-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 vol. 18, No. 9
2. 論文標題 「レバノン：政治改革への一進一退」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中東動向分析	6. 最初と最後の頁 27-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamao, Dai	4. 巻 No.8
2. 論文標題 “ The Conflict in Iraq and its Impact on Perception toward Statehood: Based on Poll Surveys ”	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Relational Studies on Global Crises Online Paper Series No. 8, Working Paper No. 4	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山尾大	4. 巻 No.5
2. 論文標題 「ISのインパクトをはかる イラク主要3紙の量的テキスト分析から」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新学術領域「グローバル関係学」オンライン・ペーパー・シリーズ	6. 最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山尾大	4. 巻 No.6
2. 論文標題 「送り出し国で難民危機はいかに報道されたのか アラビア語主要紙の量的テキスト分析から」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新学術領域「グローバル関係学」オンライン・ペーパー・シリーズ	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山尾大	4. 巻 44巻, 11号
2. 論文標題 「「勝利」したイラク人民動員隊とイラン革命防衛隊 ソレイマーニー司令官殺害の政治的インパクトを考える」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中東協力センターニュース	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 千葉悠志	4. 巻 535
2. 論文標題 「中東における報道統制 近年の動向と統制方法の多様化に着目して」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 3-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 7件)

1. 発表者名 浜中新吾・山尾大
2. 発表標題 Political Mobilization and Its Impact on Voter Turnout: Based on a Survey Experiment in Iraq
3. 学会等名 Southern Political Science Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 千葉悠志
2. 発表標題 中東における放送市場の自由化と政治変動 エジプトの事例から
3. 学会等名 日本マス・コミュニケーション学会2020年度秋季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Suechika, Kota
2. 発表標題 “Diffusion and Convergence of Statehood in Syria under Conflict: The 2017 Social Survey Analysis”
3. 学会等名 Panel 7E “Exploring New Political Dynamics in the Post-IS Middle East,” The 22nd Mediterranean Studies Association Annual International Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 末近浩太
2. 発表標題 「中東政治の「よりよい理解」に向けて：その方法を再考する」
3. 学会等名 立命館大学国際地域研究所「紛争・平和構築研究プロジェクト」主催「中東・イスラーム研究(MEIS)レクチャーシリーズ1」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 末近浩太
2. 発表標題 「中東政治の「よりよい理解」に向けて：その方法を再考する」
3. 学会等名 龍谷大学法学部2019年度第1回政治系合同講演会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山尾大
2. 発表標題 「宗派主義の政治的意味をはかる イラク主要紙の量的計量分析」
3. 学会等名 日本中東学会第35回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kinoshita, Hiroko and Yamao, Dai
2. 発表標題 “A Quantitative Text Analysis on Mobilization of the Electorate by Islamist Parties during the 2018 Iraqi Parliamentary Election”
3. 学会等名 International Conference on Global Risk, Security and Ethnicity, IPSA Research Committee 44 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yamao, Dai
2. 発表標題 “Measuring the Impact of the IS on Media Reporting: Based on Quantitative Text Analysis of Major Iraqi Newspapers”
3. 学会等名 Poltext (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yamao, Dai
2. 発表標題 "How the Refugee Crisis was Reported in the Middle East: A Quantitative Text Analysis of Major Arabic Newspapers”
3. 学会等名 JAIR Annual Convention (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yamao, Dai
2. 発表標題 “ ” Re-securitization” as “ Evasion of Responsibility” : A Quantitative Text Analysis of Major Arabic Newspapers on Refugee Crisis ”
3. 学会等名 Relational Studies on Global Conflicts: International Conference on Resources and Human Mobility (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 千葉悠志
2. 発表標題 「テレビ時代におけるイスラーム思想／知についての考察 高まる企業家の役割」
3. 学会等名 第35回日本中東学会年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 千葉悠志
2. 発表標題 「湾岸諸国と放送メディア 国際関係が作りだす放送産業のかたち」
3. 学会等名 日本マス・コミュニケーション学会2019年度秋季研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Chiba, Yushi
2. 発表標題 "Authoritarian Regimes' Response to the New Media Environment: The Case of Middle Eastern Countries"
3. 学会等名 Forth International Conference on Communication & Media Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 Larbi Sadiki ed. (末近浩太 酒井啓子との共著)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 684
3. 書名 Routledge Handbook of Middle East Politics	

1. 著者名 末近浩太・遠藤貢 編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 216
3. 書名 紛争が変える国家 (シリーズ「グローバル関係学」第4巻)	

1. 著者名 末近浩太 編、中村覚 監修 (山尾大・千葉悠志)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 276
3. 書名 シリア・レバノン・イラク・イラン	

1. 著者名 Keiko Sakai and Philip Marfleet eds. (山尾大)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 252
3. 書名 Iraq after the Invasion: People and Politics in a State of Conflict	

1. 著者名 山尾大	4. 発行年 2021年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 294
3. 書名 紛争のインパクトをはかる 世論調査と計量テキスト分析からみるイラクの国家と国民の再編	

1. 著者名 Ratuva, Steven, Handy A. Hassan and Radmir Compel eds. (木下博子・山尾大)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 379
3. 書名 Risk, Identity and Conflict: Theoretical Perspectives and Case Studies	

1. 著者名 近藤洋平 編 (千葉悠志)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学中東地域研究センター	5. 総ページ数 259
3. 書名 アラビア半島の歴史・文化・社会	

1. 著者名 千葉悠志・安田慎 編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 248
3. 書名 現代中東における宗教・メディア・ネットワーク イスラームのゆくえ	

1. 著者名 鈴木董・近藤二郎・赤堀雅幸 編 (末近浩太・千葉悠志)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 826
3. 書名 中東・オリエント文化事典	

1. 著者名 NHK放送文化研究所 編 (千葉悠志)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 320
3. 書名 NHKデータブック世界の放送2021	

1. 著者名 NHK放送文化研究所(編)(千葉悠志)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 333
3. 書名 データブック世界の放送2020	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	木下 博子  (Kinoshita Hiroko)  (60711223)	九州大学・留学生センター・准教授   (17102)	
研究分担者	千葉 悠志  (Chiba Yushi)  (70748201)	公立小松大学・国際文化交流学部・准教授   (23304)	
研究分担者	山尾 大  (Yamao Dai)  (80598706)	九州大学・比較社会文化研究院・准教授   (17102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------